

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-225745

(43)公開日 平成6年(1994)8月16日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
A 2 4 B 15/32		6807-4B		
A 2 4 D 1/02		7229-4B		
A 2 4 F 15/00		7229-4B		

審査請求 未請求 請求項の数7 OL (全 3 頁)

(21)出願番号	特願平4-237346	(71)出願人	592190453 ソシエテ ナショナル デクスプロワタシ オン アンデュストリエル デ タバック エ デ ザリュメット フランス国、75430 パリ セデ、ケ ド ルセー 53番地
(22)出願日	平成4年(1992)9月4日	(72)発明者	ジャンークロード バタール フランス国、45770 サラン、リュ クラ レ 39番地
(31)優先権主張番号	91.10.991	(72)発明者	ダニエル エスノー フランス国、45140 サン ジャン ドゥ ラ リュエル、リュ デダル 72番地
(32)優先日	1991年9月5日	(74)代理人	弁理士 富田 和子 (外2名)
(33)優先権主張国	フランス(FR)		

(54)【発明の名称】 喫煙製品の第一次もしくは第二次煙の変性／加香方法

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 喫煙製品の第一次もしくは第二次煙の変性／加香方法の提供。

【構成】 パイプまたは紙巻きたばこの形で喫煙する混合物、および葉巻きたばこ、紙巻きたばこ等の喫煙製品の第一次もしくは第二次煙を、これら製品の包装の制限された雰囲気内で該製品に気相で移動する芳香物質もしくは変性物質の少なくとも1の溶液を、これらの製品の外巻き紙に適用することにより変性／加香する変性／加香方法において、溶媒として、室温では揮発せず、付着される芳香族物質の蒸気圧より小さい蒸気圧を有する生成物を使用することを特徴とする変性／加香方法。

【特許請求の範囲】

【請求項1】パイプまたは紙巻きたばこの形で喫煙する混合物、および葉巻きたばこ、紙巻きたばこ等の喫煙製品の第一次もしくは第二次煙を、これら製品の包装の制限された雰囲気内で該製品に気相で移動する芳香物質もしくは変性物質の少なくとも1の溶液を、これらの製品の外巻き紙に適用することにより変性／加香する変性／加香方法において、溶媒として、室温では揮発せず、付着される芳香族物質の蒸気圧より小さい蒸気圧を有する生成物を使用することを特徴とする変性／加香方法。

【請求項2】請求項1において、溶媒は 10^{-1} mmHgよりも小さい蒸気圧を有するものである変性／加香方法。

【請求項3】請求項1または2において、溶媒の沸点は 180°C を越える変性／加香方法。

【請求項4】請求項1において、溶媒はプロピレングリコール、トリエチレングリコール、ブチレングリコール、ポリエチレングリコールおよびポリプロピレングリコールの中から選択される変性／加香方法。

【請求項5】請求項4において、溶媒は上記物質の混合物である変性／加香方法。

【請求項6】請求項1、2、3、4、または5において、溶液は、写真製版法により、喫煙製品の外巻き紙に付着される変性／加香方法。

【請求項7】請求項5において、溶液は少なくとも20センチポアズの粘度を有する変性／加香方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、たばこの基材の有無にかかわらず、紙巻きたばこ、葉巻きたばこ等の喫煙製品の組成物に含まれる1以上の成分、およびパイプまたは紙巻きたばこの形で喫煙される成分の混合物を燃焼することによって生じる第一次もしくは第二次煙を、これらの製品の包装の制限された雰囲気内で製品に気相で移動する芳香族物質もしくは変性物質を、これらの生成物の外巻き紙に適用することにより、変性／加香する変性／加香方法に関する。

【0002】

【従来の技術】包装には、紙巻きたばこのたばこストランドを包む紙のような製品の包装、葉巻きたばこの外巻き葉もしくは内巻き葉、喫煙混合物に直接に接する箱のラベルまたはカートン等喫煙製品の箱自体を構成する支持物、もしくは紙巻きたばこを全体的に覆っているアルミニウム箔が用いられる。

【0003】このタイプの処理はすでに知られているが、このうち芳香族物質としては常に溶融メントール、アルコール溶液、もしくは水溶液が用いられる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、室温で揮発性である、所望の芳香族物質もしくは変性物質に

本方法を適用し、同じ喫煙混合物に基づいて異なる風味特性を有する製品を製造することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記目的を達成するために、たばこの基材の有無にかかわらず、紙巻きたばこ、葉巻きたばこ等の喫煙製品の組成物に含まれる1以上の成分、およびパイプまたは紙巻きたばこの形で喫煙される成分の混合物を燃焼することによって生じる第一次もしくは第二次煙を、これらの製品の包装の制限された雰囲気内で製品に気相で移動する芳香族物質もしくは変性物質を、これらの生成物の外巻き紙に適用することにより変性／加香する変性／加香方法を提供する。

【0006】このような物質の例として、シナモン、ナツメグ、クローヴのようなスパイス抽出物、アカシア、バラ、ジャスミンのような花、ライム、オレンジ、チェリー、あんずのような果物抽出物およびベンズアルデヒド、メントール、アニソール、カーボン、アネトールのような同一もしくは非同士の自然芳香分子について説明されているが、これらに限定されない。

【0007】

【作用】所望の結果を得るために、本発明では、室温では揮発せず、付着する芳香族物質の蒸気圧より小さい蒸気圧を有する製品の溶媒を使用している。

【0008】このようにして、得られた溶液により、制限された雰囲気内で外巻き葉から喫煙製品に移動するまで、芳香族物質は紙上で溶解されたままであることが可能となる。

【0009】好ましくは、溶媒の蒸気圧は 20°C で 10^{-1} mmHg未満であり、沸点は 180°C を越えるものとする。

【0010】溶媒として、ヒドロキシまたはポリヒドロキシ生成物、例えばプロピレングリコール、トリエチレングリコール、ブチレングリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコールを、単独または混合させて用いた場合に良好な結果を得る。

【0011】溶液は、好ましくは、写真製版法により塗布される。この場合、溶液の粘度が20センチポアズを越える時、良好な結果が得られることがわかった。

【0012】この方法の種々の実施例において、相容性または非相容性の異なった芳香／変性溶液を塗布することができる。従って、限られた領域に2つ以上の溶液を連続して塗布する、位置合わせ転写として知られる写真製版法を用いることができる。それらは隣接してもしなくてもよいし、全体的または部分的に重なってもよい。

【0013】本発明による芳香化は、実行し易く、原料について経済的であるので、異なった芳香特性を有する製品の小系を製造するのに用いることができる。喫煙製品の材料への芳香の移動は、気相で行なわれる。喫煙によって、先行技術（アルコール性および／または水性乳濁液／溶液を用いた噴霧／浸漬）により知られている方

法により同じ芳香が付加された同様な製品との本質的な相違が明らかになる。

【0014】

【実施例】以下、本発明を実行する実施例を説明するが、本発明はこれに限定されるものではない。

【0015】実験1

230gのアネトールに40gのメントールと30gのパニリンを溶解して、300gの芳香族溶液を調整する。

【0016】得られた溶液は、5センチポアズの動的粘度を有する。BASFにより生成され、E400、E1500として知られる同量の2種のLutrolポリエチレングリコールから生成された100gの混合物を、この溶液に加える。

【0017】ここで20センチポアズの粘度を有する400gの溶液が得られる。

【0018】この溶液3、5g/m²が写真製版法によりアルミニウム箔のモスリンに塗布される。この塗布された箔は、梱包機で使うことができるように、直ちにコイルの形状に巻かれる。気密プラスチックのコンテナに3カ月間貯留した後、この箔と無風味のブロンドの混合物により生成された紙巻きたばこを包装した。

【0019】2週間後、包装を開け、紙巻きたばこを味見パネルに展げた。全体として、煙の芳香は、甘く、さわやかで、穏やかな風味を持つアニス調と特色付けられることが判断された。

【0020】実験2

300gのシナモンエッセンスを実験1と同様に生成された溶液100gに混合した。このようにして得られた溶液2g/m²を、基重量が25g/m²の紙巻きたばこの紙に同様に塗布した。この紙と無風味のブロンドのたばこの混合物により形成された紙巻きたばこが得られ、2、3日後に味見パネルに呈された。この煙の芳香は、穏やかで甘い特徴を持つシナモンスパイス調と特徴付けられることが判断された。

【0021】実験3

ALALOO社の150gのコーヒー含油樹脂と150gのコーヒー芳香を混合した。この100センチポアズ以上の粘度を有する混合物を、100gのプロピレングリコールに加えた。40センチポアズの溶液3g/m²は、葉巻たばこ本体の下巻き葉を形成する、整形されたたばこの厚さ120mmのストリップに、写真製版法にて塗布された。この充填物は初めは芳香化されないが、専門家はこれらの製品の煙を、かすかな芳香化苦味をもつコーヒー調と特色付けられると判断した。

【0022】

【発明の効果】上記のように、所望の結果を得るために、本発明では、室温では揮発せず、付着する芳香族物質の蒸気圧より小さい蒸気圧を有する製品の溶媒を使用している。このようにして、得られた溶液により、制限された雰囲気内で外巻き葉から喫煙製品に移動するまで、芳香族物質は紙上で溶解されたままであることが可能となる。